

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393000031		
法人名	株式会社 グループホームつなぎ		
事業所名	グループホームつなぎ		
所在地	熊本県葦北郡津奈木町大字小津奈木2120番59		
自己評価作成日	平成26年3月8日	評価結果市町村受理日	平成26年5月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成26年3月22日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームから隣接する町のグラウンドでの様々なイベントの風景も感じられ山や海に囲まれたのどかな環境にあります。  
さつき棟・もみじ棟の2ユニット併設しており、居室のベッドは利用者が馴染深い量を使用しており家庭の雰囲気を感じられます。  
利用者個々の意思を尊重しながら、かつ生活リハビリを行い今までと変わらない暮らしの継続を支援するため職員一同で日々取り組んでいます。  
開設後3年が経過するところですが、まだまだ試行錯誤の状況です。利用者・家族のニーズに応えられるように体制整備に努め、職員個々のレベルアップにも取り組んでいます。

町の庁舎や運動公園など行政機関に隣接するホームは、広大な敷地に併設施設を併せ持ち、本年度から合同での推進会議を開催して情報を共有し、参加者の声を運営に反映させている。開所から三年目を迎え入居者と職員の関係性は確固たるものとなり、傍に寄り添いながら希望を聞き取り個別外出の充実にも活かされている。自宅に帰っての花見や仏壇参りなど入居前の生活を継続し、できることで入居者を支え行動を共にすることで更なる信頼関係の構築に努めている。管理者はこの一年を評価し、成果が見られなかった点や着手できなかった事を真摯に受け止め、次年度に向けた抱負を語っているが、認知証サポーターとして地元中学校での啓発活動に参加するなど地域貢献の第一歩を踏み出しており今後の活躍が期待される。本年度初めて開催した家族会で寄せられた意見や感謝の言葉も、今後のホーム運営や職員の心の糧となり、代表者が機会あるごとにホームを訪れては入居者の顔を確かめて生活ぶりを見ていかれるなど、一体となってホーム生活の充実に取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の基本理念復唱は継続している。家庭的という環境作りを意識して取り組んでいる。	開設に至った法人代表者の高齢者福祉に対する熱い思いと、職員のケアに対する強い気持ちが盛り込まれた理念を掲げ、開所時からのホームの指針としている。毎朝の唱和により職員の意識向上を図り、日々のケアに反映させるよう努めている。	管理者はこの一年を評価し、ミーティングでの振り返りができなかったと語り、新年度は理念を今一度見直したいとしている。職員の意向が詰まった理念であり、基本姿勢を守りつつ全員で検討されることを望みたい。併せて具体的な年目標や月目標を設定する事で、より充実した支援に繋がるものと思われる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には、できる限り参加するようにしている。利用者の要望にもできる限り応えるよう努めているが、事業所としては地域の一員にはまだまだである。	隣接する運動公園での夏祭りやタイアップしてホーム行事(バーベキュー大会)を開催し、本年度は家族の他に地域代表者へも声かけしてグラウンドで打ち上げられる花火を楽しんでいる。個別外出の機会を積極的に取り入れ、衣料品や日用品の買い物、美容室の利用など地域資源を活用して出かけている。職員が水俣・芦北ブロック会の研修に参加して、同業者との交流を図り、管理者は認知症サポーターとして地元中学校に出向き、啓発活動に関わるなど地域貢献にも着手している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が認知症サポーターの活動をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、事業所運営及び利用者関連の報告を行っており、サービス向上に努めている。	本年度は敷地内にある特養ホームや多機能事業所との合同会議を開催し、オープンした地域交流館を会場として開催されている。行政や地域、家族の代表者が参加し、各事業所の現状報告の後、ヒヤリハットや事故報告について参加者の疑問や質問に応じるなど透明性のある運営に取り組んでいる。	行政や地域代表者とのせつかくの会議の機会であり、より多くの参加に繋がるよう全家族への声かけを期待したい。また、アクシデント報告は直近の会議ごとに行うなど改善を期待したい。今後は地域交流館での開催に限らず、ホームでも行うことで入居者の表情や環境などを確認でき、更に充実した意見なども出されると思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議委員に行政職員もおり、町役場で行われる地域ケア会議に管理者が出席し情報共有を図っている。	行政担当者が毎回推進会議に参加しており、その都度、有意義な助言や質問が出され毎月役所で開催されるケア会議は、他事業所との情報交換の場として共に運営に活かされている。管理者は津奈木町以外からの入居の相談を行政にあげたり、書類提出などで担当者のもとを訪れ良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外の鍵は開放。できる限り利用者の意向を拒まないよう努めている。身体拘束の勉強会も取り入れている。	拘束について研修会を実施し、一人ひとりの職員の中にしっかりとした認識はあるものの、「ちょっとまって！」など、ことばで行動を制限してしまう場面も見られるとして、その都度注意し合うように努めている。外出傾向にある入居者へは自然な形で寄り添い、一緒に散歩に出ることで不安を取り除き、安心して過ごせる環境作りを進めている。	スピーチロックについては接遇にも通じる課題であることから、尊厳などを含めた今後の話し合いを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても勉強会に取り入れている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認識不足だと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は説明を行い、都度対応している。改定時も書面等で説明を行い、捺印等頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望等を運営に反映するための一歩として今年度、初めての家族会を実施した。今後も継続したいと思う。	昨年十月初めての取り組みであった『家族会』を開催し、出された意見を集計して運営に反映させるなど入居者の生活に活かされており、管理者は今後も継続させたいとしている。入居者の意見は普段の関わりの中から聞き取り、はっきりとした意思表示が出来る人も多いが、難聴の方には筆談やジェスチャーで対応し、本人の思いに寄り添うよう努力している。家族からは意見と共に、感謝の言葉が出されており職員の励みにもなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見・提案等は都度検討して対応している。	管理者は普段から職員の意見や提案を聞き取り、必要な案件は定期会議の中で検討している。入居者の定期的な治療に伴う医療機関からの送迎に対応するため、八時半の早出を八時に繰り上げるなどユニットごとに出勤時間を調節している。二ヶ月ごとの勉強会には担当者を置き、資料作成に関わることで自信を持って職務にあたるよう職員の質の向上を目指している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員からの意見・要望等は都度検討。禁務時間帯の変更や就業規則の整備・訂正も実施した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	なかなか参加できない状況だがシフトを考慮しながら少数でも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のブロック会に参加。交換研修や最近では町の福祉担当者で行われる懇親会にも参加している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にホームを見学して頂き雰囲気を見て頂く。要望等は、入居前に尋ねたり、お話ししながら安心して利用して頂くよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にホームを見学して頂いている。要望等は、入居前に尋ねたり、お話ししながら安心して利用して頂くよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の面接や情報収集を行い対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	体調に合わせてながら、さりげなく家事全般を促したり役割を持って頂いている。自ら率先して行う方もいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やお便りにて近況報告、受診・外出等可能な限りご家族にお願いしホームでも対応している。ご家族であれば面会時間も指定せず、毎年のバーベキュー会も継続している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医の継続、行きつけの美容室利用、贈り物支援など努めている。	ホームに入居したことでこれまでの生活を諦めることなく、できることで入居者の希望に答えている。「家族に電話したい」「木蓮の花を家に見に帰りたい」「仏壇を参りたい」など、個々の思いを実現するよう一丸となって対応している。家族の協力による盆・正月の帰宅や外泊も支援され、入居者が慣れ親しんだ台所仕事や雑巾がけなどに関わる機会を設定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングのテーブル配置など性格等を見極めながら柔軟に対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居される方の相談や支援は、状況に応じて担当者、医療機関等と協力して積極的に行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示できる方が多いため、意向に合わせ本人本位に生活して頂いている。	本年度は特に入居者の思いに応え、できる限りその意向に沿うよう個別外出の機会を増やしている。意思疎通の難しい方には普段の関わりや表情から汲み取ったり、家族の話から推察し、本人の希望に応えるよう全員で共有してプランに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴や暮らし方をご本人・ご家族に尋ねながら、また情報提供等により把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月1回のケース会議を実施。申送り、経過記録、伝達簿等で現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の希望を聞き作成している。またケース会議等で課題を出している。	職員を入居者の担当しておりケア会議での気づきや意見がプランに繋がっている。高血圧が心配される入居者の定期受診の継続や、様子を見ながら家事への関わりを調整するなど必要な支援を計上し、モニタリングの期間は位置づけていないが、二ヶ月から半年後の評価により現状を見直し、変更や継続した内容は支援の中に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録を残し、ケアの実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族のニーズに応じて散髪はホームにきて頂いたり受診にも柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園やお店、温泉等を活用。運営推進会議でも情報を促している。花を植えたり、作物もしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望を聞きながら、これまでのかかりつけ医を継続している。受診も柔軟に対応し不明な点は連絡したり場合により協力医療機関に相談も行っている。	これまでのかかりつけ医を継続するか本人・家族と話し合い決定している。特別に要望がなければ協力医の説明を行っている。家族に本人の状態を知ってもらうために定期受診は基本的に家族同行としているが、困難な場合や遠方の場合はホームでも対応を行っている。家族の受診については、本人に何か変わった点があれば前もってホームより医療機関に連絡を行うなど、連携を図りながらスムーズな受診に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医や緊急医療機関、協力医療機関に状態報告し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報提供書を作成している。また職員間で協力しお見舞いや洗濯の支援、状態確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体制上、対応困難な場合など説明しており希望の医療機関等は把握している。	現在の取り組みとしては継続した医療が必要であればホームでの支援は難しく、医療機関での対応となることを家族に伝えている。また、話し合いが必要な時点で、本人の意向も含め家族と確認を行い方向性を決定している。	管理者はホームで出来る支援、入居者が楽しく過ごしてもらえるようこれからも努めて行きたいと語っている。今後は看取り支援の有無に限らずホームの方針を文書化して職員との共有や必要に応じた家族への説明が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応の勉強会はしているが、実践には不安もある。協力医療機関への相談や連絡等は決めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防立ち会いの元、夜間想定を中心に通報・避難訓練を実施している。毎回、利用者も参加している。隣接施設との協力体制もとっている。	難しい訓練を想定する方が意識や対策の強化に繋がるとし、消防署の参加を得、年二回の夜間想定火災訓練を実施している。訓練後の総評として、職員の声掛けが不足していたことや、119番通報まで時間がかかり過ぎた事があげられ、次回に活かす事を職員間で共有されている。ホームは隣接施設との協定が結ばれており、消防設備業者との連携も確立している。また、災害備蓄として飲み水・衣類・簡易携帯食などが倉庫に保管され、職員にも周知されている。	日々の点検(台所・居室・外周など)や担当者による月一回の点検(避難経路・廊下や通路、階段他)など日頃から安全管理への意識が高いことが確認された。今後はAEDも含めた推進会議での啓発や、訓練を行う際は地域への告知などにも期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格や性格に合わせて配慮している。言葉づかいに配慮し利用者の呼び名もご家族に確認をとったりしている。	それぞれの入居者のこれまでを尊重し、職員は方言(つなぎ弁)も交えながら、穏やかな日常生活を支援している、呼称は苗字にさん付けであるが、家族の希望で下の名前でも対応している。重要書類は事務所で管理し、職員の守秘義務については入職時や研修の中で周知徹底されている。	入居時に同性介助については特に希望など確認は行われていないが、今後は普段の関わりの中で、聞き取ることも必要と思われる。取り組みに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	要望等表出できる方が多くできるだけ希望に沿って対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて特に日課も指定せず買い物、ドライブ等希望を聞いている。自由に生活して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品の買い物同行支援、美容室でパーマをかけられたり服装も本人で決めて頂くなど対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備・片付け・台拭き・盛り付けなどそれぞれで役割があり日常から自発的にして頂いている。好まない食事も別のも物を提供して対応している。	地元商店の食材(野菜・精肉・鮮魚)を使用し調理は専任者が中心に行っているが、入居者も買い物や汁物、ご飯のつぎ分けなど出来ることを行っている。個々の粗糲に応じ料理によっては刻みやミキサー、堅そうな物も必ず本人に尋ねてから切るようにしている。誕生会の希望食や手作りケーキ、花見弁当など楽しみになる食事支援を検討し、苦手な食材には代替えで対応している。	茶碗や汁椀・湯呑・箸は自分のものを使用し、明るい食堂で職員も一緒に楽しい食事時間である。エプロンの使用を否定するものではないが、使用方法については検討されることを望みたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューはある程度のバランスを考え作成している。食事量は毎食記録し水分に関しては毎食事と10時、15時、就寝前と設けている。必要に応じて尿量、水分量チェックをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で行える方が多く、不十分なところを支援している。週1回は義歯消毒をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ケース会議等で都度個々に合った排泄を検討している。全介助の方も日中はトイレでの排泄を基本としている。	自立の方も多くできるだけ布下着の継続に努める他、声かけや誘導支援、二人介助など個々に応じチームワークを持って支援している。夜間はリハビリに尿とりをプラスしたり、ポータブルトイレの方もおられ使用後は毎日の洗浄や、週一回は本体も徹底して清潔な管理に努めている。また、トイレの掃除も午前中を中心にその都度確認を行い、いつでも気持ちよく利用できるよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	基本的に毎朝、ヨーグルトを提供して頂いている。医療機関に相談したり必要に応じて緩下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日中が主になっているが、曜日は指定せず、事業所の都合に合わせていないようにしている。温泉も促している。	季節の菖蒲やゆず湯の他、入浴中はおしゃべりや音楽の好きな方へは曲を流すなど工夫しながら楽しい入浴に取り組んでいる。支援は日中が中心であるが、曜日や毎日の希望にも対応している。冬場は寒さのため拒否される方も多くなるが、湯船に浸かるとほっとされることから、その都度声かけや担当者を交代しながら取り組んでいる。	脱衣所や浴室は清潔に管理されており、今後は浴槽の柵なども整頓することで更に気持ち良い入浴に繋がると思われる。温泉地にも近いことから、今後は個別支援などで温泉・足湯入浴の機会も増えていくことに期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状態から日中の過ごし方を考慮している。昼間、短時間の昼寝も時には促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は個人ファイルに綴じ、変更時は状態観察行い、状況によりかかりつけ医に相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や役割後には「ありがとうございます」「助かりました」等の声かけを意識している。季節の行事や行事食をお行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご家族と受診帰りに外出に出かけたりされている。温かい日は散歩にでたりドライブ等も積極的に行っている。	ホーム周辺は散歩や散策を楽しめる環境にあり、日光浴を兼ねできるだけ戸外に出かけるようにしている。季節の花見ドライブの他、衣類店や美容室、自宅への帰省など個別支援の充実が図られている。訪問当日も「庭に花(木蓮)が咲いているので帰りたい！」の、要望を受け、職員が付き添い帰省し、安心してホームに帰宅された入居者の姿があった。自宅での様子はカメラに収められており全職員でその取り組みを分かち合う場面があった。ホームはイベント時には全員で出かけているが、外出を好まれない方には決して無理はせず本人の意思を尊重している。	管理者は今年度は外出支援にも随分取り組むことができたが、個別の買い物支援に今後もしっかり努めたいと抱負を語っている。取り組みに期待したい。また、ホーム前のグラウンドで開催される夏祭りには家族も一緒に出かけており、今後も家族の参加を呼びかけ、入居者と一緒に外出の機会を楽しんでもらう働きかけにも期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口金として基本ホームでお預かりしている。本人所持している方もおられ、お正月に孫にお年玉として渡される方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望時は対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けや家庭的で花も置くように心がけている。エアコンのスイッチ等光物が気になる方もいるためテープを貼ったりして目立たないようにしている。	ホームリビングからの山々の眺めは入居者に見慣れた光景でもあり、自然に会話を弾ませている。職員は心がけて花を持ち寄り、壁面作品と共に季節を感じ取れる環境に努めている。昨夏はゴーヤのカーテンもできたようである。今年は特にホーム内の衛生環境にも力をいれ、職員の意識に繋がるような注意事項を掲示しながら、入居者が安全で安心して過ごせる空間が作られている。	入居者が日々寛ぐためのソファに傷みが見られるようである。縫製やカバーなど職員のアイデアや工夫により早急な改善が期待される。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの分散配置や玄関廊下にもソファー設け工夫している。また、ユニット間も自由に行き来できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にも個人の居室であることの説明をし馴染みの物等構わず自由に持参して頂くよう促し説明している。	防寒対策として二重窓が設けられた居室は、温湿度計により季節や入居者に応じ居心地良く過ごせる環境に努めている。また、入居時に『本人の家』として、家具やお気に入りの物品などを持ち込み、自由に使って欲しい事を申し伝えている。日々の掃除は職員が中心に行っているが、入居者の中には一緒に取り組むことを楽しみにされている方もおられるようである。また、来訪にも繋がるよう衣替えは家族にも依頼し、本人にとって不足のものはないか確認をしてもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、風呂場等提示して自立を支援している。		